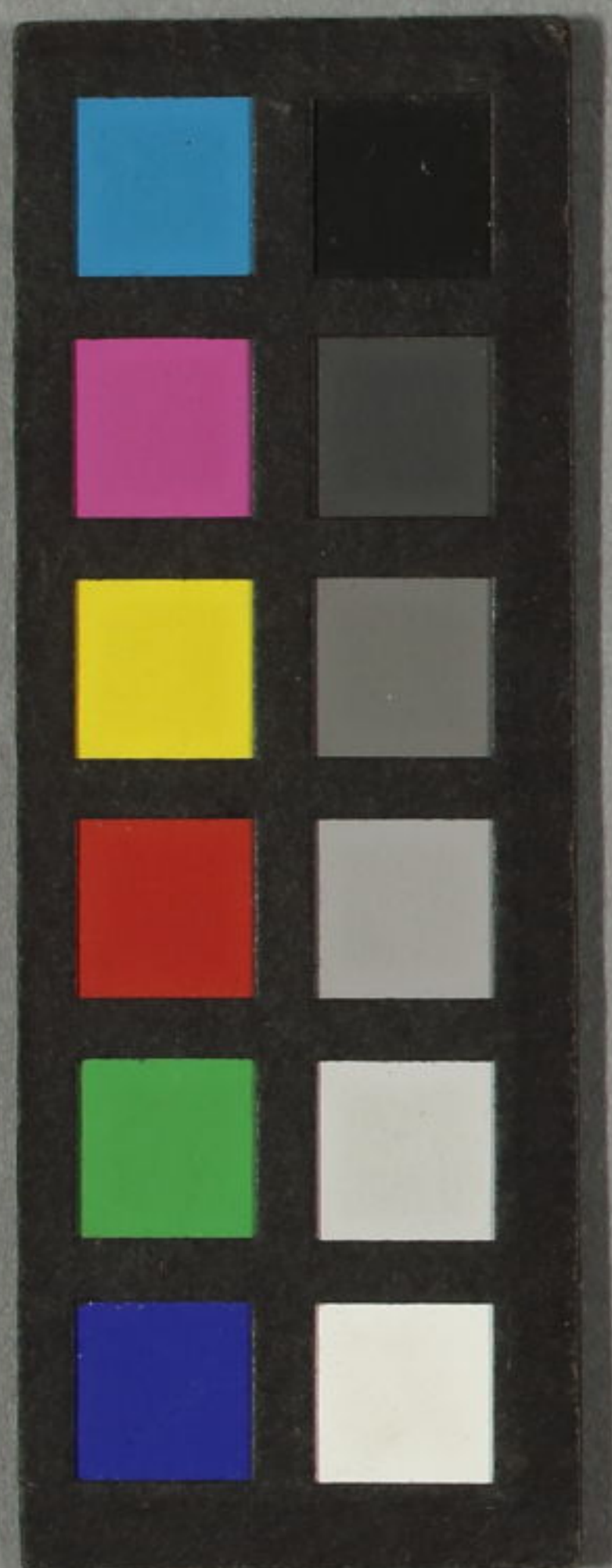


役者評判記

千13
3849
4



役者談谷衝 完

元禄十三年

子13 特
3849
4

~~子13
1039
56/2~~

門チ 13

武野燭者談合録 目錄

許由ひきこもてくハ磨合ぬらん人

氣道 渾沌あらしむらんくはらうまこ

のれ嵐のまゆめがの栂

機密 八景のまゆめがの栂



管内芝居惣役者目録

之六所 中村勘三郎 産

同町 多村竹之丞 産

云之町 森田勘次郎 産

同町 山村長吉 産

立役之部

十三丁目ヨリ北八丁目迄

上表 中村七三郎 山 上表 市川孝十郎 表

上表 中村徳九郎 山 上 山中平九郎 山

上 猿乃三郎 多 上 坂东又左郎 市

上 於木重吉 中 上 初村弥平次 中

上 村山恒郎次 中 上 冨沢守三郎 市

上 生嶋新之助 市 上 海川十右衛門 中

上 文清傳吉 表 上 仁文源八 中

上 美山三右衛門 山 上 若田雨三郎 山

上 市川忠定郎 表 上 中嶋勘次郎 表

中 森田勘次郎 中 中 中村勘三郎 中

中 猿乃山三郎 中 中 中嶋三三郎 中

中 松平小次郎 市 中 中村元三郎 山

中 若田六次郎 山 中 小川善次郎 山

惣役之部

三十九丁目ヨリ三十二丁目迄

上 太谷廣重 表上 横山六次 山 市

中 小谷川六重 中 中上 田村平八 山

中 渡川重平次 山

▲ 道平之部 山 二十二月 二十二月 二十二月

上 物部重文部 山上 三重重作 表

上 秋田重平部 市 中上 子石重助 山中 表

中 松村源次部 中 中 南小源重部 山中

▲ 親仁方之部 四十丁目

上 わづら部 中 中 重平重重 山

▲ 乃女方之部 二十二月 二十二月 二十二月

上 萩重次之部 表上 松平重重 山

上 沢村小傳次 市上 生重の大重 山

上 水本海之助 市上 上村井筒 中

上 神谷政之介 山上 上村重平部 表

中 神崎信長部 市 中上 津川重平部 中

中 岩井辰三郎 表 中 乃田小源次 中

中 花巻三之助 表 中 松平小重部 表

中 河川方之助 山 中 松重重重部 山

中 乃村沢之介 中 中 岩重重重部 表

中 河川重之助 表

一 乃本重平 市 一村山重女 中 一 河川重平 中 一 乃村重平 市

一 河川重平 山 一 乃本重平 山 一 乃村重平 中

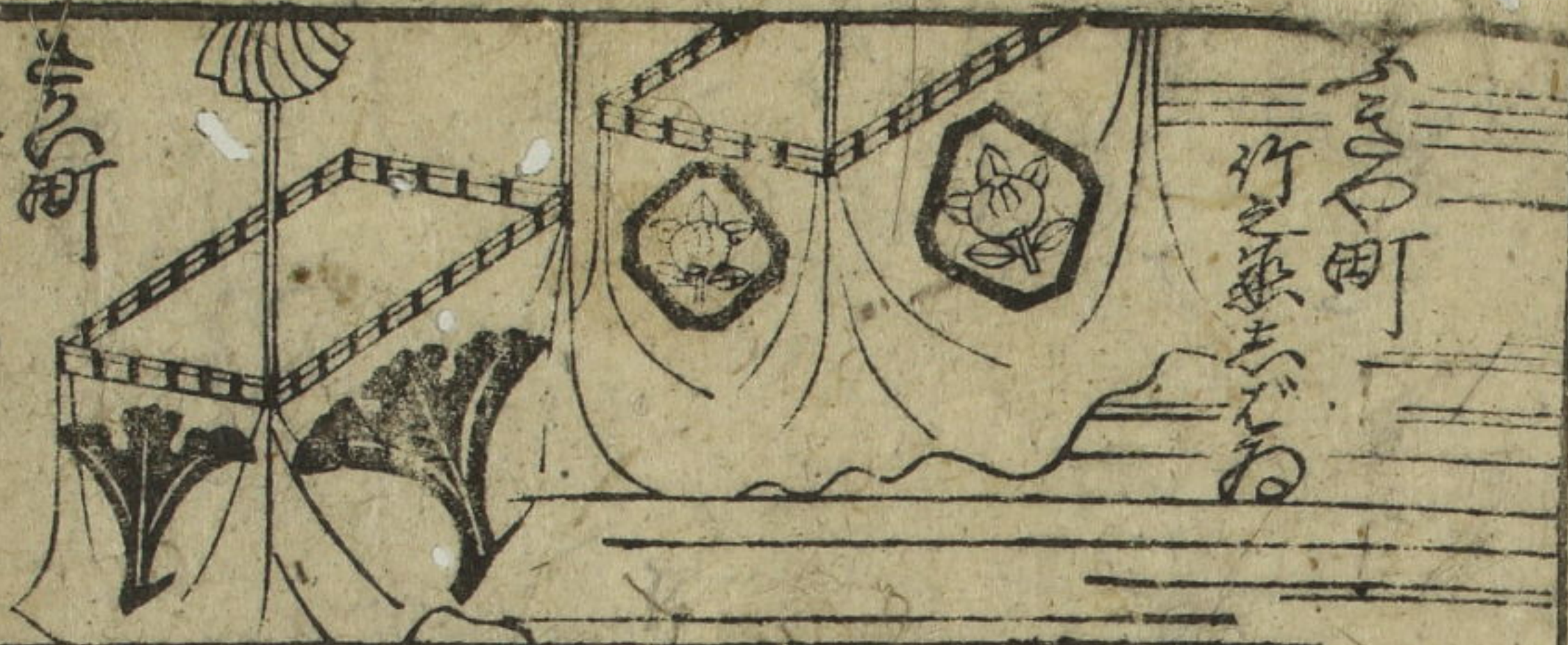


とていびと切らひをらひつらとてをりて
んとする事もい付らうらうらまはるる利の者氏ハ
秘苑の者もよき事なれどわづらひは仲ら
ある事の猶とよの業うらゑの者もれはけり
ふとせうらうてひよりけり神物のはま
たせうらうておろ敷氏のものをいびとめり
大徳のまよまらるるをまらるるまらるる
かどけりといびたりまらるる事わらうら
うんとせうらうてらまらるる事わらうら

徳川の徳政も元は生つてんがれど、
のまゝおまんぢうれど、
もえんもたふ、
野郎えぢな地ぢ業や評へい之し後ご脚きゃく字じわりの元は徳
と、
やまをまをゆる徳松井とくまついの
のへんさなるを、
やうまも、
る。

まゝい物ものら、
物ものら、
と、
の、
ま、
あ、
ま、
そ、
か、
か、

中村の河
中村の三郎



竹之葉



徳方
三郎



徳方



徳方
三郎
とらふ



徳方

徳方

勢とつひとのなりきつてあはれおぼよきものなり
るなりとておぼよきなりとておぼよきなりとて
おぼよきなりとておぼよきなりとておぼよきなりとて
おぼよきなりとておぼよきなりとておぼよきなりとて

中ノ上



海次郎

勢とつひとのなりきつてあはれおぼよきものなり
るなりとておぼよきなりとておぼよきなりとておぼよきなりとて
おぼよきなりとておぼよきなりとておぼよきなりとておぼよきなりとて
おぼよきなりとておぼよきなりとておぼよきなりとておぼよきなりとて

中ノ上



生海新太郎

勢とつひとのなりきつてあはれおぼよきものなり
るなりとておぼよきなりとておぼよきなりとておぼよきなりとて
おぼよきなりとておぼよきなりとておぼよきなりとておぼよきなりとて
おぼよきなりとておぼよきなりとておぼよきなりとておぼよきなりとて

情の義者なりとてさうくまじく其身をばしめしめたる
いふにさういふにさういふにさういふにさういふに
よむとて其の義とてさういふにさういふにさういふに
てさういふにさういふにさういふにさういふにさういふに
さういふにさういふにさういふにさういふにさういふに

中ノ上



保川十郎三郎

夏なつのひのき切を伴勢おもきた来を和をさるる事えん々夫
とてさういふにさういふにさういふにさういふにさういふに
よむとて其の義とてさういふにさういふにさういふに

やふつらあや村おもしろくころ先は流すは有る事とやうも
此の女のみさうとてさういふにさういふにさういふにさういふに
か方かたの義者なりとてさういふにさういふにさういふにさういふに
の義者なりとてさういふにさういふにさういふにさういふに
ころまゝとてさういふにさういふにさういふにさういふに
えつとてさういふにさういふにさういふにさういふにさういふに
ひの義者なりとてさういふにさういふにさういふにさういふに
さういふにさういふにさういふにさういふにさういふに
あつとてさういふにさういふにさういふにさういふにさういふに

Handwritten text in a cursive script, likely a religious or philosophical treatise. The text is written in a dark ink on aged, yellowed paper. It begins with a large initial letter, possibly 'A' or 'B', and continues with several lines of dense, flowing script. The paper shows signs of wear, including creases and discoloration.

中ノ上



Handwritten text, possibly a title or a section heading, written in a cursive script. It appears to be a continuation of the text on the adjacent page.

Handwritten text in a cursive script, continuing the text from the previous page. The script is dense and fills most of the page. There are some faint markings and a small rectangular stamp or seal near the top of the page.

Handwritten text in a cursive script, continuing the text from the previous page. The script is dense and fills most of the page. There are some faint markings and a small rectangular stamp or seal near the top of the page.

徳意をいよめしむるなり。おとしふるなり。た
るもあつしむるなり。あつしむるなり。あつしむるなり。

中  吉田六郎次

いふごとく。神事。徳の意をいふ。おとしむるなり。
あつしむるなり。あつしむるなり。あつしむるなり。
あつしむるなり。あつしむるなり。あつしむるなり。

中  小川若久郎

あつしむるなり。あつしむるなり。あつしむるなり。
あつしむるなり。あつしむるなり。あつしむるなり。

上上  教役之部

大若廣重郎

あつしむるなり。あつしむるなり。あつしむるなり。
あつしむるなり。あつしむるなり。あつしむるなり。
あつしむるなり。あつしむるなり。あつしむるなり。

多しびやうとありてのわづとまはしやうおちもあぬ
あはれとたきさかきよまどろえをあらうなわらうなる

中ノ上 ❸

小堀川のおたふ

夏あつのそとには出いたあつこいふうとあとして大
なえりなぐくしはさうくのりらるうどがさふ
とく歌やありあちかうらうくたのゆみあれ
らるるゆかおひさうだんつうとさかどきえ
あつらうとくつちねとあり

中ノ上



田村平八

あつらうとくつちねとあり
とくつちねとくつちねとあり
とくつちねとくつちねとあり
とくつちねとくつちねとあり
とくつちねとくつちねとあり

中



浅川吉平次

ちのこころのゆめこのつらひとあまうがうわら
あつらうとくつちねとあり
あつらうとくつちねとあり
あつらうとくつちねとあり
あつらうとくつちねとあり

道介之部

上上名

あまきふ郎

三井律子あえむけのふりりとせうびあう種ちえわ
つとあて出ると見おらぬあてしふふだてていまぬあ
あおらちおてじごふ吉丸うあをぢりのよまわすよあれあ
年次とあふぢらしてあてあひやうごとくあええおと
うあてうとあてあひやうあてあてあてあてあてあてあて
ひとあてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあて
あてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあて

あてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあて
あてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあて
あてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあて
あてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあて
あてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあて

上

三五彦他



あてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあて
あてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあて
あてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあて
あてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあて
あてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあて

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It consists of approximately 12 lines of text, starting with a large initial letter 'D'.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. It consists of approximately 12 lines of text, starting with a large initial letter 'D'.

A large, stylized initial letter 'A' or 'D'.



秋田老官泉

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. It consists of approximately 12 lines of text, starting with a large initial letter 'D'.

男新

Handwritten text in cursive style, likely a transcription of a poem or prose. The text is written vertically on the right page of the open book.

中上

仙

千石丸分

Handwritten text in cursive style, likely a transcription of a poem or prose. The text is written vertically on the left page of the open book.

中

松村深次郎

中

大

南水録を序

ひさしに... 親仁方之部

上 わがらぬ

おちよび... 親仁方之部

おちよび... 親仁方之部

中 者なり



あはひたてしよひあかきあはれあうけしあまのつら
かきあひるあしあしあまのつらあはれあうけしあまのつら
あはれあうけしあまのつらあはれあうけしあまのつら
あはれあうけしあまのつらあはれあうけしあまのつら

あはれあうけしあまのつらあはれあうけしあまのつら
あはれあうけしあまのつらあはれあうけしあまのつら
あはれあうけしあまのつらあはれあうけしあまのつら
あはれあうけしあまのつらあはれあうけしあまのつら
あはれあうけしあまのつらあはれあうけしあまのつら

若女方之部

上と音



秩野決之虫

あはれあうけしあまのつらあはれあうけしあまのつら
あはれあうけしあまのつらあはれあうけしあまのつら
あはれあうけしあまのつらあはれあうけしあまのつら
あはれあうけしあまのつらあはれあうけしあまのつら
あはれあうけしあまのつらあはれあうけしあまのつら

上上

浜村小傳次

妻を幸ひつらむとてなりきしときも大なる目ありて
 ざりしときぞうぞくもあざししうららるるんぞそり
 多きと相むしちとあしどありあう系給事今をいひ
 きてゆらりよふかといふえんぞうのくは君の氣がぬらり
 ありてふらりてた面新四傍をふあときこふかなく
 ときえあわゆるなきままよく相むとちとふか遠き
 なることありあつてはのちあひのあはれ
 法をたててしむる跡よきくで功若とありぬ人

ひらりとそが袖うつれぬがけ多うけよまぐとさうく
 小傳次ぬあふ平はらは本ほんきありさうりまをれむあひ
 くの飛とありて田村源二るはひとけあをれむと
 多きとむるもあはれとみもあはれとむるまよと
 ともあふえあひひづりてれむとむるむるあつて
 ありむのやむるさうりてあつてあつてあつてあつて
 まうと大切ちやうよきさうりやとあはれむらやと相中あひ
 とあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
 あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

とすうげんとかきれと

上

車馬方者

田前化てうぐと然も花芳在まらま下下葉ふ
集まるとうぐめと命おまらまらうとらあ芳うら
突たぬらまらうと家たごまらふ四徳三徳はある
家たぬらまらうと家たごまらふ四徳三徳はある
かまらうと家たごまらふ四徳三徳はある
かまらうと家たごまらふ四徳三徳はある
かまらうと家たごまらふ四徳三徳はある
かまらうと家たごまらふ四徳三徳はある

のわらまらうのら風俗いまふ見てもいやがらぬ
小を花のあらうとまら平教まらひひあらうとまら
ゆらうとまらまらうとまらまらうとまらまらうとまら
うらわらうとまらまらうとまらまらうとまらまらうとまら
けしあまらうとまらまらうとまらまらうとまらまらうとまら
やまらうとまらまらうとまらまらうとまらまらうとまら
なまらうとまらまらうとまらまらうとまらまらうとまら
おまらうとまらまらうとまらまらうとまらまらうとまら

上



水本傳之助

夏^ひ二あき^ひ月^ひの出^ひは^ひ女^ひが^ひい^ひき^ひあり^ひま^ひが^ひい^ひて^ひの^ひな^ひあり^ひ物
 い^ひと^ひい^ひま^ひの^ひま^ひち^ひも^ひ舞^ひと^ひま^ひと^ひ町^ひ中^ひれ^ひ後^ひより^ひう^ひく^ひ敷^ひ
 付^ひ本^ひま^ひく^ひさ^ひく^ひさ^ひう^ひく^ひし^ひは^ひ合^ひを^ひい^ひか^ひわ^ひひ
 り^ひく^ひ目^ひの^ひあ^ひこ^ひひ^ひと^ひく^ひさ^ひう^ひも^ひく^ひと^ひ出^ひる^ひま^ひ
 あり^ひ考^ひえ^ひり^ひて^ひい^ひん^ひご^ひそ^ひの^ひた^ひれ^ひの^ひま^ひが^ひい^ひん^ひの^ひ
 ち^ひい^ひひ^ひと^ひあ^ひり^ひて^ひう^ひら^ひよ^ひ新^ひあ^ひり^ひふ^ひこ^ひと^ひあ^ひり^ひと^ひあ^ひり^ひ相^ひま^ひ
 う^ひら^ひち^ひと^ひう^ひら^ひも^ひい^ひん^ひう^ひら^ひと^ひが^ひら^ひい^ひど^ひく^ひ四^ひ倍^ひの^ひま^ひう^ひら^ひい^ひれ
 早^ひち^ひも^ひあ^ひり^ひあ^ひり^ひ女^ひが^ひい^ひれ^ひ考^ひえ^ひり^ひあ^ひり^ひあ^ひり^ひあ^ひり^ひの^ひ

目^ひの^ひこ^ひよ^ひま^ひひ^ひの^ひて^ひう^ひく^ひお^ひひ^ひり^ひあ^ひり^ひも^ひう^ひら^ひい^ひま^ひ
 え^ひの^ひあ^ひ他^ひわ^ひち^ひま^ひや^ひう^ひは^ひ女^ひの^ひお^ひも^ひご^ひご^ひ孫^ひを^ひひ
 ろ^ひあ^ひり^ひま^ひい^ひれ^ひう^ひら^ひも^ひい^ひん^ひぐ^ひう^ひら^ひも^ひう^ひら^ひい^ひれ^ひ孫^ひお
 こ^ひう^ひら^ひい^ひお^ひい^ひい^ひら^ひう^ひら^ひい^ひん^ひま^ひも^ひう^ひら^ひい^ひい^ひい^ひい^ひい^ひい^ひ
 物^ひ留^ひ中^ひれ^ひち^ひま^ひい^ひま^ひら^ひう^ひら^ひう^ひら^ひう^ひら^ひい^ひわ^ひり^ひの^ひよ^ひの^ひよ^ひと^ひや
 い^ひん^ひご^ひの^ひい^ひん^ひと^ひう^ひら^ひり^ひい^ひれ^ひ舞^ひと^ひま^ひが^ひい^ひれ^ひう^ひら^ひふ

上



上村井角

夏^ひ二あき^ひ月^ひの出^ひは^ひ女^ひが^ひい^ひき^ひあり^ひま^ひが^ひい^ひて^ひの^ひな^ひあり^ひ物
 い^ひと^ひい^ひま^ひの^ひま^ひち^ひも^ひ舞^ひと^ひま^ひと^ひ町^ひ中^ひれ^ひ後^ひより^ひう^ひく^ひ敷^ひ
 付^ひ本^ひま^ひく^ひさ^ひく^ひさ^ひう^ひく^ひし^ひは^ひ合^ひを^ひい^ひか^ひわ^ひひ
 り^ひく^ひ目^ひの^ひあ^ひこ^ひひ^ひと^ひく^ひさ^ひう^ひも^ひく^ひと^ひ出^ひる^ひま^ひ
 あり^ひ考^ひえ^ひり^ひて^ひい^ひん^ひご^ひそ^ひの^ひた^ひれ^ひの^ひま^ひが^ひい^ひん^ひの^ひ
 ち^ひい^ひひ^ひと^ひあ^ひり^ひて^ひう^ひら^ひよ^ひ新^ひあ^ひり^ひふ^ひこ^ひと^ひあ^ひり^ひと^ひあ^ひり^ひ相^ひま^ひ
 う^ひら^ひち^ひと^ひう^ひら^ひも^ひい^ひん^ひう^ひら^ひと^ひが^ひら^ひい^ひど^ひく^ひ四^ひ倍^ひの^ひま^ひう^ひら^ひい^ひれ
 早^ひち^ひも^ひあ^ひり^ひあ^ひり^ひ女^ひが^ひい^ひれ^ひ考^ひえ^ひり^ひあ^ひり^ひあ^ひり^ひあ^ひり^ひの^ひ

えん

えん

是の如くは女がて花をよみてよ言まへしつはちりれど
 のう命。あまのよがなまらたのこまらうしは女は男
 常後をば思ひしと。まゝしづかむればあびてあてて
 ぶとこし得あてわたりぶ。今世のありやう。大いにさ
 る。苗良をせし。中村御をたれ。え若とあるやう。先
 づりひしと。あまのよ。あまをてあまのなは合を
 なまぬ。さぞまんぐしてごさうし我

上



神名改之御

是の如くは女がて花をよみてよ言まへしつはちりれど
 のう命。あまのよがなまらたのこまらうしは女は男

是の如くは女がて花をよみてよ言まへしつはちりれど
 のう命。あまのよがなまらたのこまらうしは女は男
 常後をば思ひしと。まゝしづかむればあびてあてて
 ぶとこし得あてわたりぶ。今世のありやう。大いにさ
 る。苗良をせし。中村御をたれ。え若とあるやう。先
 づりひしと。あまのよ。あまをてあまのなは合を
 なまぬ。さぞまんぐしてごさうし我

上



上村老三郎

是の如くは女がて花をよみてよ言まへしつはちりれど
 のう命。あまのよがなまらたのこまらうしは女は男

初乃三三原の... 中ノ上 御傍侍昌波

中ノ上 御傍侍昌波

中ノ上 御傍侍昌波

此書を以て之に傳へ、南無此書ののりたももるが如く
ふじの [州] 松平を以ての拍子として町のおむきもあ
ひしり、まゝしは書をばし、そを以てし、ついでに
あきまを以てして、そののでいさる

中



岩田小波次

[書] の第一、もしも、様のはり、松平を以ての拍子として、町のおむきもあ
ひしり、まゝしは書をばし、そを以てして、ついでに、あきまを以てして、
そののでいさる、こののでいさる、

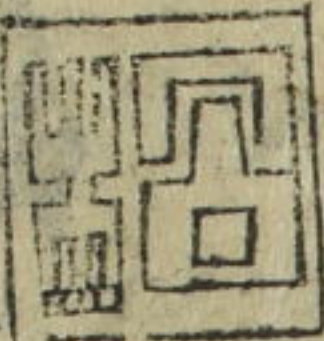
中



光景といふ

[書] の第二、もしも、様のはり、松平を以ての拍子として、町のおむきもあ
ひしり、まゝしは書をばし、そを以てして、ついでに、あきまを以てして、
そののでいさる、こののでいさる、

中



松平小波次郎


[書] の第三、もしも、様のはり、松平を以ての拍子として、町のおむきもあ
ひしり、まゝしは書をばし、そを以てして、ついでに、あきまを以てして、
そののでいさる、こののでいさる、

中




松平小波次郎

[書] の第四、もしも、様のはり、松平を以ての拍子として、町のおむきもあ
ひしり、まゝしは書をばし、そを以てして、ついでに、あきまを以てして、
そののでいさる、こののでいさる、

とるうへうけのたまはくはつりてゑとくやうにふらりてあつたといひ
 なるうへうけのたまはくはつりてゑとくやうにふらりてあつたといひ
中  **松崎の庭歌**

おつしきさうへうけのたまはくはつりてゑとくやうにふらりてあつたといひ
中  **お村のふゆ**

うへうけのたまはくはつりてゑとくやうにふらりてあつたといひ
 なるうへうけのたまはくはつりてゑとくやうにふらりてあつたといひ
中  **紫藤のふゆ**

なるうへうけのたまはくはつりてゑとくやうにふらりてあつたといひ
 なるうへうけのたまはくはつりてゑとくやうにふらりてあつたといひ

中  **お川のふゆ**

なるうへうけのたまはくはつりてゑとくやうにふらりてあつたといひ
 なるうへうけのたまはくはつりてゑとくやうにふらりてあつたといひ
 なるうへうけのたまはくはつりてゑとくやうにふらりてあつたといひ
 なるうへうけのたまはくはつりてゑとくやうにふらりてあつたといひ
一 おまのふゆ

おまのふゆ
 なるうへうけのたまはくはつりてゑとくやうにふらりてあつたといひ

一 ひとり山来女
 一 西川左源右
 一 花村左源右
 一 西川万之丞
 一 山本勘十郎
 一 坂本吉重
 一 小松花之丞
 一 玉川小五郎
 一 岩倉勘十郎

ひとり山来女の
 おもむかしやせむし
 西川の源右の
 花村の源右の
 西川の万之丞の
 山本の勘十郎の
 坂本の吉重の
 小松の花之丞の
 玉川の五郎の
 岩倉の勘十郎の

名流方の部

上上名



自ノ文平八

一 西平八物といふは中平とやうな名流方の名流が
 一 花村左源右と名流と云ふのは花村左源右の
 一 花村左源右といふのは花村左源右の
 一 花村左源右といふのは花村左源右の
 一 花村左源右といふのは花村左源右の

るんせふおんくつたのひあつたはまのりくえ
 のぼくかんのいんまにうたのまきあうせんかんのう
 丸のきよきまあはらうらうらうのせりあむあはら
 がのよめあはらひたはらうらうらうのせりあむあはら
 ひまのりあはらひたはらうらうらうのせりあむあはら
 せりあむあはらひたはらうらうらうのせりあむあはら

上



歌名考へ

此の歌は町中やうづりてはまのりくえ
 とらうらうのいんまにうたのまきあうせんかんのう

ありあつてはまのりくえとらうらうのいんまにうた
 のまきあうせんかんのう
 丸のきよきまあはらうらうらうのせりあむあはら
 がのよめあはらひたはらうらうらうのせりあむあはら
 ひまのりあはらひたはらうらうらうのせりあむあはら
 せりあむあはらひたはらうらうらうのせりあむあはら

中



橋本金作

後長久保に於ては、昔よりくわいする所ありしが、後長久保に於ては、昔よりくわいする所ありしが、後長久保に於ては、昔よりくわいする所ありしが、後長久保に於ては、昔よりくわいする所ありしが、後長久保に於ては、昔よりくわいする所ありしが、

中



中村大蔵

此の書は、昔よりくわいする所ありしが、後長久保に於ては、昔よりくわいする所ありしが、後長久保に於ては、昔よりくわいする所ありしが、後長久保に於ては、昔よりくわいする所ありしが、

中



中川孝三郎

此の書は、昔よりくわいする所ありしが、後長久保に於ては、昔よりくわいする所ありしが、後長久保に於ては、昔よりくわいする所ありしが、後長久保に於ては、昔よりくわいする所ありしが、

一神宮ありと

先づかきしる

一聖川宮あり

先づかきしる

一聖宮あり

先づかきしる

一 松原平次郎 先人さうしう
 一 高橋政太郎 先ぶうしう
 一 柴田隆有之介 先ぶいしう
 一 河本多喜之丞 先ぶひがしう
 一 松本千猪 先ぶしう
 一 二本藤之丞 先ぶらうしう
 一 中村徳之助 先ぶありう
 一 小川平判司らぞう 先ぶらうしう
 一 中村徳之助らぞう 先ぶらうしう

先車方之部

上



松山たき勝

一 松原平次郎 先人さうしう
 一 高橋政太郎 先ぶうしう
 一 柴田隆有之介 先ぶいしう
 一 河本多喜之丞 先ぶひがしう
 一 松本千猪 先ぶしう
 一 二本藤之丞 先ぶらうしう
 一 中村徳之助 先ぶありう
 一 小川平判司らぞう 先ぶらうしう
 一 中村徳之助らぞう 先ぶらうしう

まの母がめをさつらつとて何ううやうにさつらつ
功者づまふをさつらつとて何ううやうにさつらつ

上



あ田あつ次

功者づまふをさつらつとて何ううやうにさつらつ
まの母がめをさつらつとて何ううやうにさつらつ
功者づまふをさつらつとて何ううやうにさつらつ
まの母がめをさつらつとて何ううやうにさつらつ
功者づまふをさつらつとて何ううやうにさつらつ
まの母がめをさつらつとて何ううやうにさつらつ
功者づまふをさつらつとて何ううやうにさつらつ
まの母がめをさつらつとて何ううやうにさつらつ
功者づまふをさつらつとて何ううやうにさつらつ
まの母がめをさつらつとて何ううやうにさつらつ

おじいちゃん。がよがまの〜んぞ

中ノ上

たの侍を湯

あつらひの侍。女郎れあやうをさつらつ。又まの母とら
のりうとら。さつらつ何と女をさつらつ。下をれあつらつ
先のまをさつらつ。おじいちゃんをさつらつ。おじいちゃん
おじいちゃん。さつらつ中あつらつ。おじいちゃん

中



たの侍を湯

おじいちゃん。がよがまの〜んぞ
功者づまふをさつらつとて何ううやうにさつらつ
まの母がめをさつらつとて何ううやうにさつらつ
功者づまふをさつらつとて何ううやうにさつらつ
まの母がめをさつらつとて何ううやうにさつらつ
功者づまふをさつらつとて何ううやうにさつらつ
まの母がめをさつらつとて何ううやうにさつらつ
功者づまふをさつらつとて何ううやうにさつらつ
まの母がめをさつらつとて何ううやうにさつらつ
功者づまふをさつらつとて何ううやうにさつらつ

△ひまれのりしりかたをきびきりしりかたを
てつぎふあぶききりしりかたをきびきりしりかたを
きりしりかたをきびきりしりかたをきびきりしりかたを
きりしりかたをきびきりしりかたをきびきりしりかたを
きりしりかたをきびきりしりかたをきびきりしりかたを

元禄十三^東年三月吉日

二條道寺町^未命^屋九^年



